

入学試験問題

国語

100点満点（50分）

（注意）

1. 問題冊子及び解答用紙は指示があるまで開かないこと
2. 問題は一～四、解答用紙は別紙
3. 試験開始後、問題冊子表紙・解答用紙に受験番号を記入すること
4. 試験終了後、問題冊子・解答用紙ともに回収

受験番号

「、次の文章を読んで後の問いに答えなさい（字数指定問題において、句読点や「」は字数に含むものとする）。

「ピンチはチャンス」という言葉がある。逆境を逆手に取って利用する雑草の成功を見れば、その言葉は説得力を持って私たちに響いてくることだろう。

【ア】

①ピンチとチャンスは同じ顔をしているのである。

生きていく限り、全ての生命は、何度となく困難な逆境に直面する。雑草は自ら逆境の多い場所を選んだ植物である。しかし、逆境のまったくない環境などあるのだろうか。雑草がこれだけ広くはびこっているのを見れば、自然界は逆境であふれていることがわかるだろう。【イ】

逆境に生きるのは雑草ばかりではない。私たちの人生にも逆境に出くわす場面は無数にある。そんな時、②私たちは道ばたにひっそりと花をつける雑草の姿に、自らの人生を照らし合わせて[※]センチメンタルになるかもしれない。しかし、雑草は逆境にこそ生きる道を選んだ植物である。そして逆境に生きる知恵を進化させた植物である。【ウ】

けっして演歌の歌詞のようにしおれそうになりながら耐えている訳でもないし、[※]スポ根漫画の主人公のようにただ歯を食いしばって頑張っているわけでもない。雑草の生き方はもっとたくましく、Aしたたかなのである。【エ】

「逆境は敵ではない、味方である。」これこそが、雑草の成功戦略の真骨頂と言えるだろう。

幾多の逆境を乗り越えて雑草は生存の知恵を獲得し、驚異的な進化を成し遂げた。逆境こそが彼らを強くしたのである。そして、逆境によって強くなれるのは雑草ばかりでない。【オ】

「ピンチはチャンス。」

③ゆめゆめ逆境を恐れてはいけないのだ。

「逆境×変化×多様性」。雑草の成功の方程式の二つ目のキーワードは「変化」である。

※一九ページですでに紹介したように、植物は動物に比べると大きさが自由自在である。

※第一章の最後にも書いたが、植物の変化する能力を「可塑性^{かせせい}」という。可塑性の大きい植物の中でも、特に雑草は可塑性が大きいとされている。雑草は環境に合わせて、自在に大きさを变化させることができるのである。

同じ種類の雑草であっても、大きい個体は一メートルを超えるような大きさになるのに、わずか数センチの個体が花を咲かせているということもある。このようなサイズの違いは、雑草以外の植物でも見られるが、雑草の場合は大きな特徴がある。それは、どんなにサイズが小さくても花を咲かせるということがある。

私たちが育てる野菜や花壇の花は、生育が悪いと小さなままで花を咲かせることはできない。 **B**、雑草は違う。どんなに劣悪な条件で、小さな個体であつたとしても、花を咲かせ、実を結ぶのである。

— 中略 —

④植物は動物に比べて可塑性が大きい。それは、どうしてだろうか。

動物は自由に動くことができるので、エサやねぐらを求めて移動することができる。しかし、植物は、動くことができない。そのため、生息する環境を選ぶことができないのだ。その環境が生存や生育に適さないとしても文句を言うこともできないし、逃げることもできない。その環境を受け入れるしかないのだ。

そして、環境が変えられないとすれば、どうすれば良いのだろうか。環境が変えられないのであれば、環境に合わせて、自分自身が変化するしかない。だから、植物は動物に比べて「変化する力」が大きいのである。

植物の中でも雑草は可塑性が大きく、自由自在に変化することができる。この「変化する力」にとって、もっとも重要なことは何だろうか。それは「変化しないことである」と私は思う。

植物にとって重要なことは、花を咲かせて種子を残すことにある。ここはぶれることはない。種子を生産するという目的は明確だから、目的までの行き

方は自由に選ぶことができる。だからこそ雑草は、サイズを変化させたり、ライフサイクルを変化させたり、伸び方も変化させることができるのである。

C、^⑤生きていく上で「変えてよいもの」と「変えてはいけないもの」がある。

環境は変化していくのであれば、雑草はまた変化し続けなければならない。しかし、変化しなければならないとすれば、それだけ「変化しないもの」が大切になるのである。

踏まれても踏まれても立ち上がる。

これが、多くの人が雑草に対して抱く一般的なイメージだろう。人々は、踏まれても負けずに立ち上がる雑草の生き方に、自らの人生を重ね合わせて、勇気付けられる。

しかし、実際には違う。^⑥雑草は踏まれたら立ち上がらない。確かに一度や二度、踏まれたくらいなら、雑草は立ちあがってくるが、何度も踏まれれば、雑草はやがて立ち上がらなくなるのである。

雑草魂というには、あまりにも情けないと思うかも知れないが、そうではない。

そもそも、どうして立ち上がらなければならないのだろうか。

雑草にとって、もつとも重要なことは何だろうか。それは、花を咲かせて種子を残すことにある。そうであるとすれば、踏まれても踏まれても立ち上がるという無駄なことにエネルギーを使うよりも、踏まれながらどうやって種子を残そうかと考える方が、ずっと合理的である。**D**、雑草は踏まれながらも、最大限のエネルギーを使って、花を咲かせ、確実に種子を残すのである。まさに「変えてはいけないもの」がわかっているのだろう。努力の方向を間違えることはないのだ。

^⑦踏まれても踏まれても立ち上がるという根性論よりも、雑草の生き方はずっとしたたかなのである。

稲垣栄洋『植物はなぜ動かないのか』より

※センチメンタル：感じやすく涙もろいさま。感傷的。

※スポ根：スポーツと根性を合成した「スポーツ根性もの」の略語。

※二九ページ：同じヒマワリでも小さなものと大きなものでは、一〇倍以上も高さに差があることが例示されている。

※第一章：第一章でもこの章に書かれている「可塑性」について同じ説明がされていた。

問一、本文中には次の部分が抜けている。この部分が入る最も適当な箇所を本文中の【ア】～【オ】より選び、記号で答えなさい。

私たちもまた逆境を恐れないことができると強くなれるはずなのである。

問二、

A

～

D

にあてはまる語として最も適当なものを次のア～エより選び、それぞれ記号で答えなさい(同じ記号は複数回使用してはならない)。

ア、しかし イ、そして ウ、だから エ、つまり

問三、——線部①「ピンチとチャンスは同じ顔をしている」といえるのはなぜか。その理由として最も適当なものを次のア～エより選び、記号で答えなさい。

ア、逆境に生きる雑草に人間は自分の人生を照らし合わせるから。

イ、逆境を生き抜き乗り越えることで強くなることができるから。

ウ、自然界に逆境がまったくない環境は存在するはずがないから。

エ、すべての生命は生きていく限りは絶対に困難に直面するから。

問四、——線部②「私たちは道ばたにひっそりと花をつける雑草の姿に、自らの人生を照らし合わせてセンチメンタルになるかもしれない」とあるが、雑草のどのような生き方に私たちは自らの人生を照らし合わせるのか。本文中より十五字以上二十字以内で抜き出して答えなさい。

問五、——線部③「ゆめゆめ逆境を恐れてはいけない」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次のア～エより選び、記号で答えなさい。

ア、必ずしも逆境を恐れる必要はない。 イ、けっして逆境を恐れてはいけない。

ウ、少しも逆境を恐れる必要はない。 エ、夢の中でも逆境を恐れてはいけない。

問六、——線部④「植物は動物に比べて可塑性が大きい」のはなぜか。その理由を四十字以上五十字以内で説明しなさい。

問七、——線部⑤「生きていく上で『変えてよいもの』と『変えてはいけないもの』がある」とあるが、「変えてはいけないもの」とは植物にとって何か。

本文中より十字以上十五字以内で抜き出して答えなさい。

問八、——線部⑥「雑草は踏まれたら立ち上がらない」のはなぜか。その理由として最も適当なものを次のア～エより選び、記号で答えなさい。

ア、一度や二度立ち上がるためのエネルギーしか雑草にはないから。

イ、茎や葉が折れてしまうことで花を咲かすことができなくなるから。

ウ、花を咲かせて種子を残すためのエネルギーを温存しておくため。

エ、踏まれながらも種子を残すための方法をじつと考えているから。

問九、——線部⑦「踏まれても踏まれても立ち上がるという根性論」と同じ意味で用いられている語句を、本文中の中略以降より五字以内で抜き出して

答えなさい。

問十、本文の内容と合致するものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア、環境が変化しようとも生きていく上では、「変化する力」よりも「変化しない」ことのほうが大切である。

イ、逆境を乗り越える進化を遂げて生存し続けている雑草の姿を、人間は謙虚な姿勢で見習うべきである。

ウ、雑草は踏まれても立ち上がるという一般的なイメージとは異なり、実際は決して立ち上がることはない。

エ、生育が悪いと花が咲かない花壇の花とは異なって、雑草は劣悪な条件でも花を咲かせることができる。

二、次の古文を読んで後の問いに答えなさい（字数指定問題において、句読点や「」は字数に含むものとする）。

今は昔、かひのくに甲斐国にたち館の①侍なりける者さぶらひの、夕暮に館を出でて家さまに行きける道に、狐のあひたりけるを追ひかけてひき入引目して射ければ、狐の腰に射当ててけり。狐射まろばかされて、鳴きわびて、腰をひきつつ草に入りけり。この男引目を取りて行く程に、この狐腰をひきて先に立ちて行くに、また射んとすれば②失せにけり。

家いま四五町にと見えて行く程に、この狐二町ばかり先だちて、火を③くはへて走りければ、「火をくはへて走るは④いかなる事ぞ」とて、馬をも走らせけれども、家のもとに走り寄りて、人になりて火を家につけてけり。「人のつくるにこそありけれ」とて、矢をはげて走らせけれども、⑤つけ果ててければ、狐になりて草の中に走り入りて失せにけり。⑥さて家焼けにけり。

④かかる物もたちまちに⑤仇を報ふなり。これを聞きて、⑥かやうの物をば構へて調ずまじきなり。

語注

『宇治拾遺物語』巻第三 二十より

※甲斐国…現在の山梨県にあたる地域。

※館の侍…国守の役所に仕える侍。

※引目…木製の矢じりを付けた殺傷力のない矢。魔よけに用いた。

※射まろばかされて…射転がされて

※町…長さの単位。

問一、——線部①「失せにけり」、②「つけ果ててければ」のここでの意味として最も適当なものを次のア～エより選び、それぞれ記号で答えなさい。

① ア、紛失してしまった

イ、見えなくなってしまう

ウ、死んでしまった

エ、失敗してしまった

◎ ア、最後まで後をつけていくと

イ、力尽きてしまったら

ウ、矢を使い果たしたら

エ、火をつけ終えてしまうと

問二、—— 部㊸ 「くはへて」、㊹ 「かやうの」を現代かなづかいに直して答えなさい。

問三、—— 線① 「侍なりける者の」の㊸と用法が同じものを、本文中より抜き出した次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア、狐の腰に射当ててけり

イ、家のもとに走り寄りて

ウ、人のつくるにこそありけれ

エ、草の中に走り入りて

問四、—— 線② 「いかなる事ぞ」と言った男の心情として最も適当なものを次のア～エより選び、記号で答えなさい。

ア、面白がっている。

イ、申し訳なく思っている。

ウ、腹を立てている。

エ、不審に思っている。

問五、—— 線部③ 「さて家焼けにけり」となった経過を説明した次の文の空欄を、「侍」・「人」という語を使い十字以上十五字以内の口語で補いなさい。

侍に矢を射かけられた狐が「

」ため、家は焼けてしまった。

問六、—— 線部④ 「かかる物」が指すものを本文中より一語で抜き出して答えなさい。

問七、—— 線部⑤ 「仇を報ふ」の意味として最も適当なものを次のア～エより選び、記号で答えなさい。

ア、報復

イ、報酬

ウ、報恩

エ、報償

問八、この話の教訓として最も適当なものを次のア～エより選び、記号で答えなさい。

ア、狐のような動物であっても、面白半分にいじめてはならない。

イ、狐は神の使いの動物なので、大切にあげなければならぬ。

ウ、狐は人を化かすことがあるので、気を付けなければならない。

エ、狐のように害をもたらす動物は、こらしめなければならない。

三、次の文章を読んで後の問いに答えなさい（同じ記号を複数回使用してもよいこととする）。

そこへお母あ様が這入って①きた。「今日は日曜だから、お父う様は少しゆつくりしていらっしゃるのだが、わたしはもうご飯を戴くから、お前もおいででないか。」こう云って、息子の顔を横から覗くように見て、詞を続けた。「夕べも大層遅くまで起きていましたね。いつも同じことを言うようですが、西洋から帰っておいでの際は、あんなに体がよかったのに、あまり勉強ばかりして、④だんだん顔色を悪くしておしまいなのね。」「なに。体はどうもありません。外へ出ないでいるから、日に焼けないのでしよう。」笑いながら云って、一緒に洋室を出た。⑤しかし奥さんにはその笑い声が胸を刺すように感ぜられた。秀麿が心からでなく、人に目潰しに何か②投げつけるように笑い声を浴びせかける習癖を、自分も③意識せずに、いつのまにか養成しているのを、奥さんは本能的に知っているのである。

食事をしまつて帰ったときは、明け方に薄曇りのしていた空がすっかり晴れて、日光が①いろいろに邪魔をする物のある秀麿の室を、物見高い心から、依怙地に④覗こうとするように、窓帷のへりや書棚のふちを彩って、卓の上に幅の広い、明るい帯をなして、インク壺を光らせたり、床に敷いてある絨緞の空想的な花模様、刹那の性命を与えたりしている。そんなふうには、日光の差し込んでいるところの空気は、黄色に染まりかかった青葉のような色をして、⑥そのなかには細かい塵が躍つて⑤いる。室内の温度のあまり高いのを喜ばない秀麿は、暖炉のコックを三分の一ほど閉じて、葉巻をくわえて、運動椅子に身を投げかけた。

森鷗外『かのように』より

問一、――線部④⑤について、その単語の品詞名を次のア～コより選び、それぞれ記号で答えなさい。

- | | | | | |
|-------|-------|-------|--------|------|
| ア、名詞 | イ、動詞 | ウ、形容詞 | エ、形容動詞 | オ、副詞 |
| カ、連体詞 | キ、接続詞 | ク、感動詞 | ケ、助動詞 | コ、助詞 |

問二、——線部①～⑤の動詞の活用の種類を次のア～オより選び、それぞれ記号で答えなさい。また、その活用形もそれぞれ正しい漢字で答えなさい。

ア、五段活用 イ、上一段活用 ウ、下一段活用 エ、カ行変格活用 オ、サ行変格活用

四、次の①～⑩について、——線部のカタカナは漢字に直し、漢字はひらがなで読みを答えなさい（なお、送りがなは不要とする）。

- ① なんとか最後までやりトげた。
- ② マギらしい内容で悩む。
- ③ 絵の色にノウタンをつけた。
- ④ 壊れた冷蔵庫をハイキする。
- ⑤ テレビでゴラク番組を見る。
- ⑥ 自分の半生を顧みる。
- ⑦ 朗らかな性格の子ども。
- ⑧ 手洗とうがいを励行する。
- ⑨ 白銀のゲレンデを滑走する。
- ⑩ 日本の伝統舞踊を習う。

— 以下余白 —